

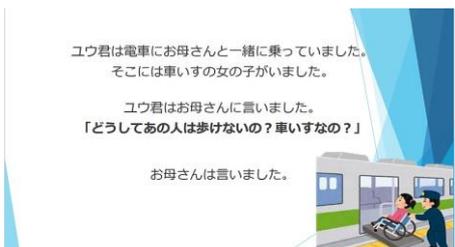
## 教員用「合理的配慮の心得」解説文

※動画と並行して読んでいただきますことを推薦します。

### 本学習の目標

○ SDGsを通じて、合理的配慮をキーワードに、他者及び自身の得意不得意に対する支援方法について考え行動に移す機会を生徒に与えることを目的とする。

### 展開例

教員の台詞	☆項目ごとの目的 ○ポイント
<p><b>①導入・自己紹介</b></p> <p>「今日は合理的配慮の心得について学んでいきましょう」</p> <p>「少し難しいこともあるかもしれないけど、今日はたくさん考える授業にいきましょう」</p> <p>「実は先生の周りにも…(エピソードトーク)…身近にも障害って実はあふれているよね。」</p>	<p>☆本学習の導入では、「合理的配慮」という一見難しい字面のテーマについて、覚えることよりも<b>考えることを最重要事項におくことを説明し</b>、気持ちを楽に学習に臨んでいただく。</p> <p>☆自己紹介では、登壇者ができれば障害者(障害のある人と表現することをお勧めします)との家族や友人、街での障害者とのエピソードを一つ紹介して本学習のテーマが身近にあることを理解していただく。</p> <p>○再度、難しい言葉や聞きなれない言葉が出てくることを説明したうえで<b>考えて発言することが最重要であることを伝えていただきたいです。</b></p>
<p><b>②障害とは</b></p> <p>「合理的配慮を学ぶ上で障害についても少し学んでおきましょう。」</p> <p>「障害は三種類あります。」</p> <p>「障害についてこんな風に考えてほしいという例えばなしがあります」</p> <p>資料に記載されているお話を朗読。</p> 	<p>☆障害については事実である図表も出した上で、こんな風に考えてみようという提案をする。これは生徒の中に差別意識を生まないことを目的とした例え話である。</p> <p>○持っているものと持っていないものという例を挙げております。これは生徒に対して「人より劣っている＝障害」にしない為の大切な考え方です。</p>

「みんなが同じじゃない、誰のせいでもない、それでいい」

資料の車椅子と電車の絵を見せながら  
「でも不安なことは多い、この先の未来  
何が必要になるのだろう」



### ③SDG s について

SDG s についての説明

「世界中でみんなの将来のためにより良い世界にしていこうという作戦があります。それが SDG s です」  
「環境問題だけではなく、人や国の不平等を無くすことも SDG s です」  
「そしてそんな世界を作る魔法の言葉が合理的配慮なのです！！」

### ④合理的配慮を考えるクイズ

資料に記載されている問題を読み上げる



「1分間、考えてみましょう」

☆実は環境問題だけではなく、「SDG s ⑩ 人や国の不平等を無くそう」これも SDG s であることを理解していただく。

○SDGs と合理的配慮は直接的につながっているわけではありませんが、今回は小中学生向けになりますので、あえて連結しています。細かく分割すると「SDG s →不平等を無くそう→障害者権利条約→障害者差別解消法→合理的配慮(義務化)」条約・法律上このような関係性があります。

☆不平等な状況に関して、まずは自身で考察し、どんなことができるか考える機会を与える。

○この問題に関して特に発表するなどのプレッシャーをかける必要はないです。まずは考える入口としてクイズを出します。

1分後…

「はい、それではどんなことを考えてみましたか？」



「(資料を進めながら解説)まずは同じ大きさの台を持ってきた人いますか？これは平等ではあるけども、まだ星空が見えない子がいますね。」



「身長に合わせて台を持ってきた人いますか？公平さがあるってみんなが星空をみることができますね。」



「応用編で、ブロック塀を無くそうと考えた人いますか？これも環境を変えるという点で正解です。」

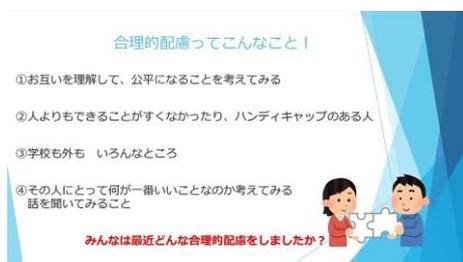
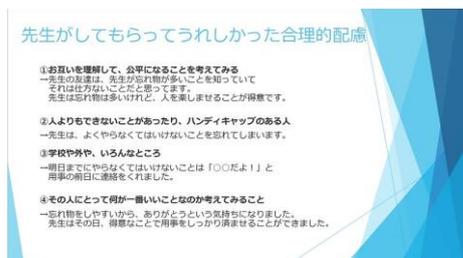
☆学校や社会などでは同じように同じものを与えられることが多いが、合理的配慮は人それぞれ持っているモノ、持っていないモノを考えた上で、全員が同じものを与えられなくても、各々の機会を喪失させないことが大切であることを学ぶ。

○「**星空をみんなでみる**こと」が最も大事なことであるから手段に平等さは必ずしも必要ないことを理解→合理的配慮の本質です。

☆視点の転換をして、そもそもの環境を変えてみようとするのも良いということ学ぶ。

## ⑤実際にあった合理的配慮

資料に記載されている例を読み上げ  
「実際に先生はこんな合理的配慮をして  
もらいました。(しましたでも可)」



## ⑥グループワーク

### 小学生向け



「まずはダックスフンドとニワトリについて考えてみましょう。ダックスフンドは足が短いんですよね？なので階段を上ることが苦手です。ニワトリは3歩歩いたら忘れられるくらい物忘れがあることで有名な動物です。」

☆登壇者の実際の話に置き換えることで、より身近に合理的配慮をすることが可能であることを理解していただく。  
また、合理的配慮をすることで、する側、された側、お互いにメリットがある事を理解していただく。

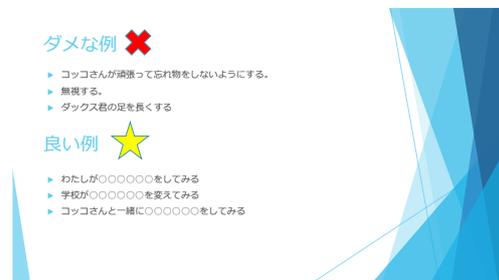
○合理的配慮という言葉に「いつ・どこで・だれに・どのように」という基本形に立て直し、より明確簡単に理解してもらうことが大切です。ここからこれを軸にグループワークに入ります。

☆グループワークでは、実際の場面をイメージしながらどんなことができるのか、様々な意見を持ち合い考えていくことを学習していただく。



資料に記載の例題を読み上げ

「では実際にダックス君とココロさんが学校にいたらどんな合理的配慮ができるか考えてみましょう！」



資料に記載のダメな例、良い例を読み上げ

「それではグループに分かれて1グループ10個以上考えてみましょう！終わったグループは発表をしましょう！」

○ダックスフンド＝肢体不自由身体障害、ニワトリ＝発達障害(注意欠陥多動性障害＝ADHD)をイメージしております。

題として人にしていないのは、実際にクラスにグレーゾーンを含め該当する生徒(身体障害・発達障害)がいた場合を避けるためです。

○動物→擬人化のイメージを大切に説明をお願いします。例えば回答の中で「ダックス君の首輪を引いて」「持ち上げて」などの回答は動物のまま合理的配慮を考えてしまっているためNGです。

○また別視点でのNGは「ダックス君及びココロさんのみが頑張る」ニュアンスの回答です。NG例を説明をお願いします。

○グループは4~6人程度が意見も出しやすく理想です。時間は10分~15分程度を想定しています。

できれば紙などに書き出してグループ毎の発表をお願いします。様々な視点からの合理的配慮を互いに理解して、無限に正解が溢れていることを理解することで、行動のハードルを下げて「合理的配慮はやりやすい」イメージを持っていただきたいです。ですので、NG例が理解できていれば基本的には全て肯定的な拍手で終わっていただければと思います。

## 中学生向け

### これからの「障がい」

▶ これからの障がいは社会が作り出していると考えられている(社会モデル)



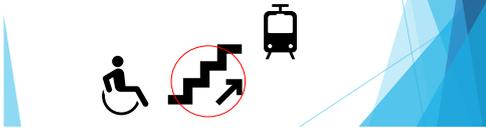
資料に記載されている説明をしながら

「これまでの障害は本人に障害がある医学モデルとされてきましたが、これからは社会に障害がある社会モデルという考え方に変わっていきます。(障害者権利条約参照)」  
「それを踏まえた上で、例題をまずは考えていきましょう」

### グループワーク例題

では、実際の生活場面を思い浮かべて考えてみましょう。

- ①車いすにいる人が電車に乗るとき、駅の中にはどんな障がいがありますか？  
② ①を解消するためには、どんな社会になるといいですか？  
③ ①を解消するために、自分自身は何ができますか？



資料に記載されている回答例を読み上げ

### グループワーク例題

- ①車いすにいる人が電車に乗るとき、駅の中にはどんな障がいがありますか？  
スロープがない、段がいつも泥んでいる、改札が狭い、エレベーターが1個しかない、迷子  
ボタンを押している人がいる、など

- ② ①を解消するためには、どんな社会になるといいですか？  
なるべく駅員さんが対応できる駅にする、車いすの人への理解があつて、全員が声を掛け  
える、スロープが増える、エレベーターが増える、など

- ③ ①を解消するために、自分自身は何ができますか？  
困っているのを見かけたら、何か手伝いましょうか？と声をかける。  
なるべくエレベーターを譲る。階段しかなかったら駅員さんを呼ぶ、など



### グループワーク

では、実際の生活場面を思い浮かべて考えてみましょう。  
Aさんは、帰省中。すぐに授業の内容を忘れたし、忘れ物をしてしまったり、約束を忘れてしまつて困っています。

あなたとAさんは大切な友達同士です。  
二人でAさんの困りごとを解決したいと思っています。

- ①クラスにAさんがいるとき、Aさんにとって学校の中にどんな障がいがありますか？  
Aさんの気持ちになって考えましょう。

- ② ①を解消するために、あなたは何かができますか？  
③ ①を解消するために、Aさんは何ができますか？  
④ ②と③をふまえて、どんなことがお互いにできますか？まとめてみましょう。



☆中学生には、障害の考え方の転換(障害者権利条約より社会モデルについてを採用)を理解し、

グループワークでは、実際の場面を想定し合理的配慮の対象者が「大切な友人」である前提で、対象者の能力を発揮するため、自身ができるか、友人が自発的に何ができるか、また一緒に何ができるかというケーススタディに近い形で合理的配慮の本質を理解していただく。

○例題に関しては、駅で車椅子の人が電車に乗る際に生まれる社会的な障害について考えていただきます。

環境面でのスロープ問題や、エレベーターがないなどの回答もちろん正解ですが、車椅子を見る人達の目が気になるなどの、人的要因まで話が及ぶとより良いです。また自分自身が出来ることについても、より現実的な手段になるかと思えます。

回答例に記載されている「声をかえる」など現実的ではあるが勇気の必要な行動などを生徒がイメージできると素晴らしいです。小さな行動でも合理的配慮のきっかけになることを理解していただければと思います。

○グループは4~6人程度が意見も出しやすく理想です。時間は10分~15分程度を想定しています。

できれば紙などに書き出してグループ毎の発表をお願いします。様々な視点からの合理的配慮を互いに理解して、無限に正解が

⑤それはお互いに歩み寄っていますか？  
どちらかが辛い思いをしていないですか？  
どちらも幸せですか？

全部YESなら、それは「合理的配慮」です！

「(資料に記載のグループワーク題を読み上げて)それではグループワークをはじめていきましょう。」

## ⑦まとめ

正解は...ありません！！  
みんなで考えること  
行動してみることに  
少しでも勉強してみること  
学校で先生や友達と話してみること

色々な人がいるけれど、何も違わないこと  
もしも...困っていることがあれば  
その人が公平に本気を出せるようなことを考えてみることに

グループワークについてFBして

「たくさんの合理的配慮が出てきました。この合理的配慮に絶対にこれ！といった正解はありません。今日みたいにみんなで考えることや話してみること、また困っている人が本気を出せるように、一緒に考えてみることに魔法の言葉合理的配慮です。」

溢れていることを理解することで、行動のハードルを下げて「合理的配慮はやりやすい」イメージを持っていただきたいです。ですので、NG例が理解できていれば基本的には全て肯定的な拍手で終わっていただければと思います。

また「お互いに歩み寄っているか、どちらか(する側)が辛い思いをしていないか」こちらは障害者を支援していく中で実際に会社や社会で起きている問題です。決して合理的配慮する側が無理をして心や体が削られ、搾取されていく必要はありません。優しい生徒、自己犠牲してしまう生徒、いるかもしれません、しかし、お互いが無理をしないこと、その中での合致を見つけることが大人になっていくにつれて合理的配慮において大切になっていきます。

☆本日の学習にて具体的な状況下での合理的配慮を理解し、次に向けて行動できることを理解する。最終的に聞いたことない言葉「合理的配慮」が身近に感じるようになってきている。